

福山民報

発行
福山民報社
福山市津之郷町
津之郷 970-1
Tel.084-952-2662
FAX084-952-2660



芦田川の堤防強化

一步前進！さらに前へ！



「国の河川改修予算増やせ」と訴えるにひそうへい前参院議員 2020年1月、福山にて

気候変動の影響で、豪雨災害が増えています。芦田川が氾らんすれば、

すさまじい被害となります。日本共産党は「堤防の強化を急げ」と議会で何度も求め、国土交通省とも交渉してきました。

日本共産党の要求実現

日本共産党の要求を受け、枝広直幹市長は整備の促進を国に提言。福山市が加盟する「芦田川改修促進期成同盟会」としても、「重点監視区間の堤防質的整備の推進」などを要望しました。

国交省は昨年度に「芦田川水系河川整備計画」を変更し、堤防強化や河道掘削を行う場所を明記しました。

草戸・本庄の工事が進む



住宅側の堤防のり面。堤防内部にたまる水をスムーズに抜き、崩れないようにする「ドレーン工法」とのこと。(本庄地域)

計画にもとづき、さつそく草戸・本庄地域で堤防の強化が始まりました。本庄地域は計画には載っていませんでしたが、もともと対策が必要な場所とのことで同時に着手され、広い範囲で工事が進んでいます。

いのち最優先の政治に変えよう

しかし、対策が必要な場所は市内に多く残っており、計画では完了までの期間が

最長30年となっています。

国交省福山河川国道事務所に状況をたずねると、「何年かかるかは予算にもよる。毎年、予算要求はしている」との説明でした。

「予算による」、何度も聞いた言葉です。生命を守る対策が、予算の都合で遅れることがあつてはなりません。

国はすぐに必要な予算を全額つけるべきです。「街を壊す福山道路より防災対策を急げ」。日本共産党は引き続き市に求めるとともに大元の国の政治をただすため、にひそうへい前参院議員を国会に送り出し、力をあわせて頑張ります。



日本共産党市議団、辻つねお県議、大平よしのが元衆院議員が国交省と交渉＝2020年2月

日米地位協定を見直し

いのちを守る検疫体制を

広島県の感染急増は米軍基地が影響

広島県内の新型「コロナ」感染が、年末から過去最多の急拡大となっています。

湯崎英彦県知事は、そのきっかけに「米軍岩国基地がある岩国市との関連」を指摘。感染力の強いオミクロン株が基地から広がった可能性は、岩国市長や山口県知事も言及しています。

水際対策に大穴

米軍基地の感染拡大は、米軍が出国前や日本入国時の検査をしていなかったことが大きな要因です。

水際対策に米軍が大穴をあけていたのです。

この背景に、米軍の特権を認める「日米地位協定」があります。日本の国内法は適用されず、感染拡大を防ぐ検疫も米軍まかせです。



中四国防衛局を訪れ、申し入れ書を手渡す大平よしのが元衆院議員と党広島市議団長

日本共産党の大平よしのが元衆院議員は1月13日、広島・山口両県の党委員会と連名で、日米地位協定の抜本改定や米軍の入国停止など緊急対策を防衛省に申し入れました。

自公政権は協定改定にも入国停止にも背を向け、国民の生命を守る姿勢は見られません。モノ言えぬ政治を変えることが急がれます。